

# 佐世保日米協会 会報 (第3号)



JAPAN AMERICA  
SOCIETY OF SASEBO  
Bulletin (Vol. 3)

1987年 7 月 31 日 発行

佐世保日米協会

佐世保市戸尾町4-5 佐世保中央病院内

☎ 0956-23-5546

• 佐世保日米協会定期総会

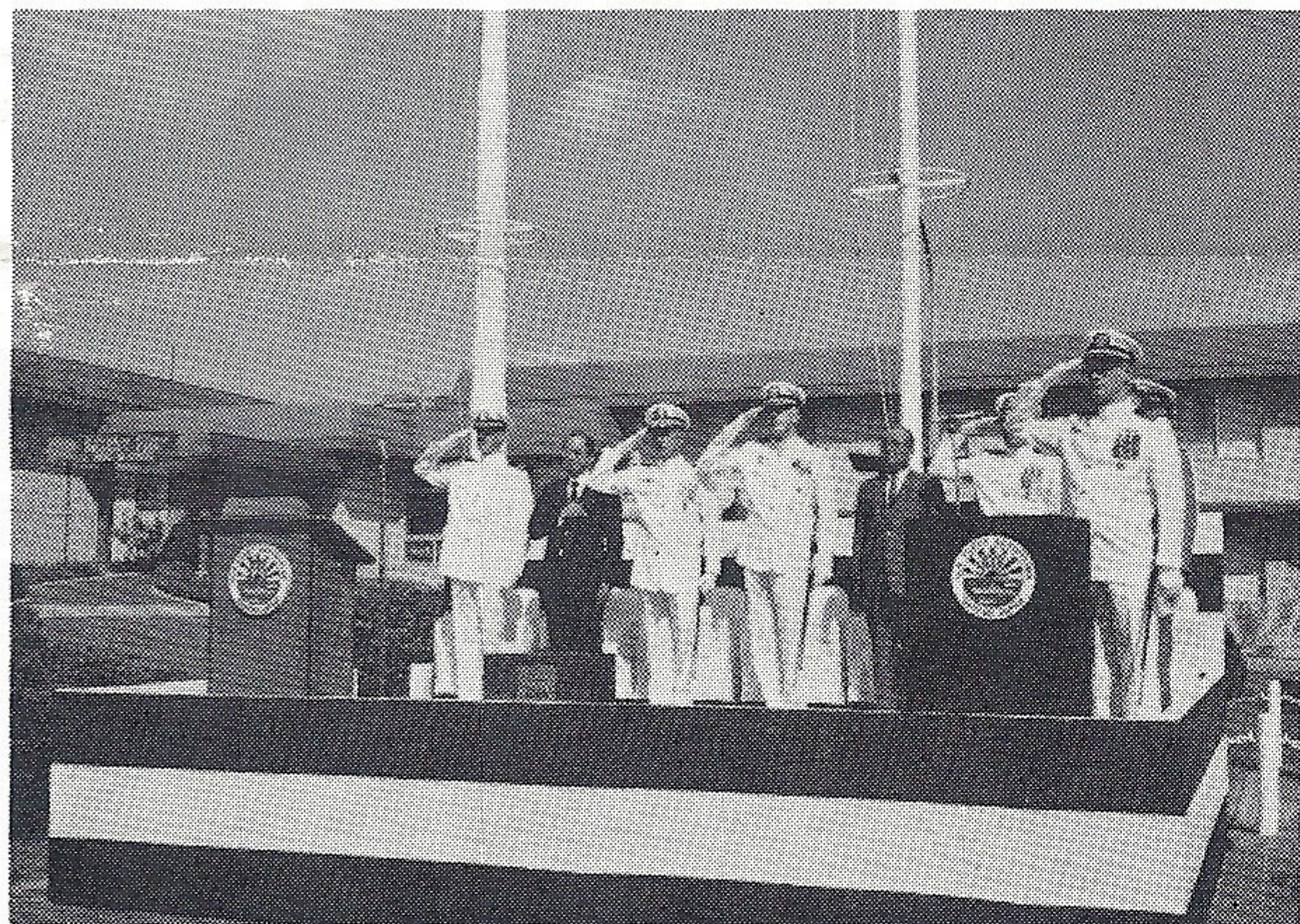
- と き……………昭和62年 8 月 25 日 (火)
- と ころ……………玉屋文化ホール 8 F, P M 5 : 30

◇ 第 1 号 議 案

( 1 号 — 1 ) 昭 和 6 1 年 度 事 業 経 過 報 告

( S 6 1 . 7 . 1 ~ S 6 2 . 6 . 3 0 )

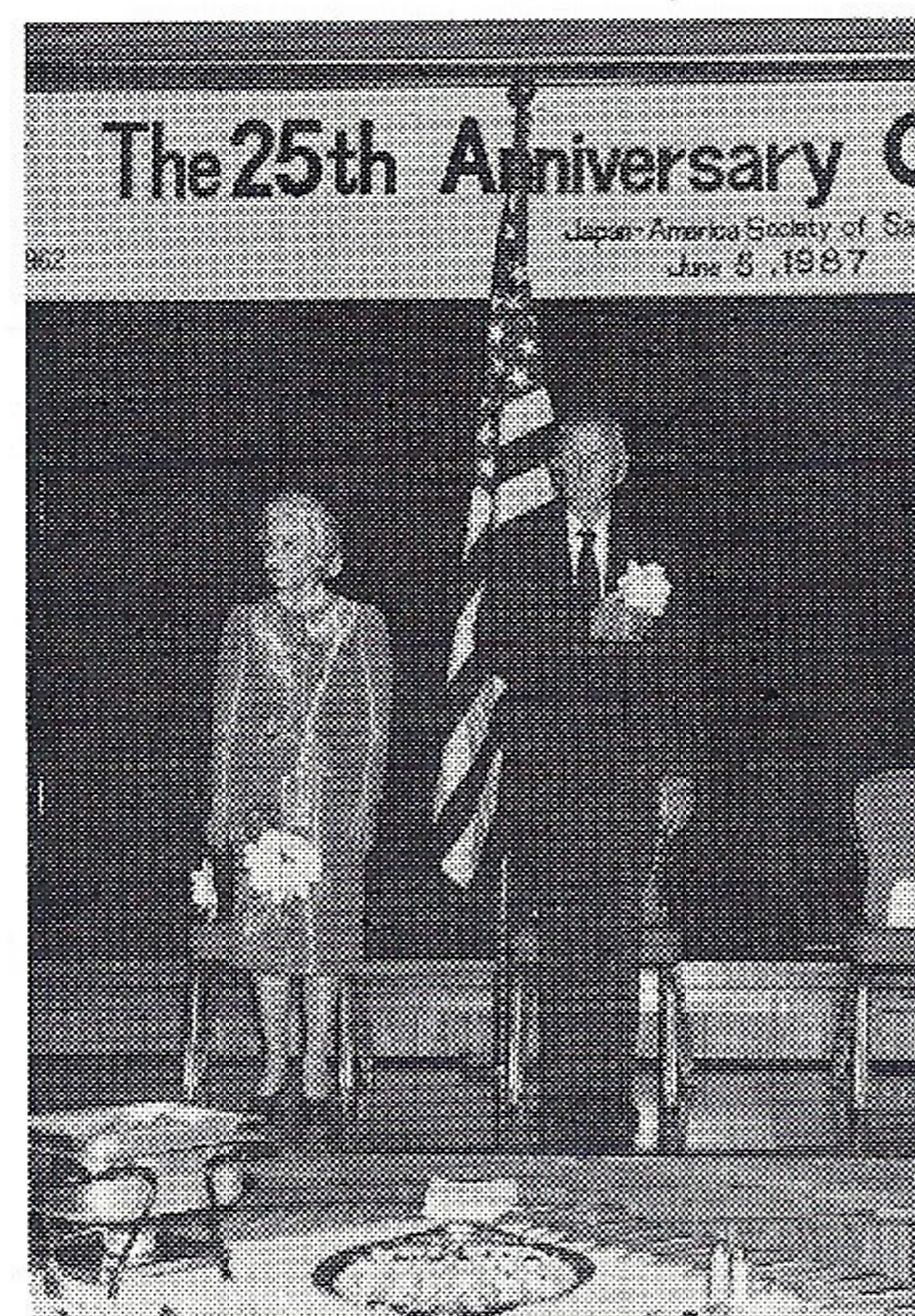
- S 6 1 . 7 . 1 1  
理事会① ( N B C クラブ会議室 ) 収支決算について
- S 6 1 . 7 . 2 1  
• 総 会 ( 市民文化ホール )  
• 懇親会 ( ハーバービュークラブ ) 会費 1 千円
- S 6 1 . 8 . 2 6  
ニュージャージーグループ歓迎レセプション  
( ホテル白邸 ) \* 会費 1 万円, 商工会議所と共催
- S 6 1 . 9 . 1 0  
理事会② ( N B C クラブ会議室 ) 司令官歓送迎会, クリスマスパーティ, 講演会, 25 周年記念行事について
- S 6 1 . 9 . 2 9  
理事会③ ( N B C クラブ会議室 ) 25 周年記念行事について
- S 6 1 . 9 . 2 9  
米海軍佐世保基地新旧司令官歓送迎会 ( 玉屋文化ホール )  
\* 会費 5 千円, 海自・商工・市と共催



司 令 官 交 代 式

- S 6 1 . 1 2 . 1 9  
クリスマスパーティ ( ホテル万松楼 ) 会費 5 千円
- S 6 2 . 1 . 1 7  
講演会「今後の日米関係と佐世保」( コミュニティセンター )  
講師 : 外務省北米局安全保障課長 岡本行夫氏  
コンパスルーム ( 総合安全保障問題研究会 ) と共催

- S 6 2 . 3 . 1 3  
理事会④ ( N B C クラブ会議室 ) 25 周年記念行事について
- S 6 2 . 3 . 1 3  
講演会「日米関係と佐世保」( コミュニティセンター )  
講師 : N H K スペシャル番組部チーフ 日高義樹氏
- S 6 2 . 4 . 2 9  
空軍バンド「パシフィックショウケース」演奏会 ( 市民会館 ) N A F A ( 海軍友好協会 ) と共催
- S 6 2 ( 5 / 1 , 5 / 1 2 , 5 / 1 8 , 5 / 2 7 )  
25 周年記念準備委員会 ( N B C クラブ会議室 )
- S 6 2 . 6 . 5  
• 25 周年記念式典レセプション ( ハーバービュークラブ )  
全会員・会費無料 450 名 ( 日 350 名・米 100 名 ) 出席



マンズフィールド大使ご夫妻と記念スピーチ

- 記念晩餐会 ( シティホテル ) 会費 5 千円  
当協会理事と外部からの来賓を招待



( 注 ) \* 印の項目は, 他と共催の独立会計のため, 当協会の収支決算には加味していない。

◆第2号議案

(2号一1) 昭和62年度事業計画(案)

- 講演会・研究会を2回程度実施する。
- レクレーション事業としては、グランドピクニック又は、それに類するものを実施する。クリスマス会も例年通り実施する。
- 親善事業として、アメリカンフェスティバル、日米ジュニア水泳大会、アメリカ艦船入港歓迎行事などを、協賛又は主催する。
- 英会話教室は、継続実施する。

(以上にて、議案終り)

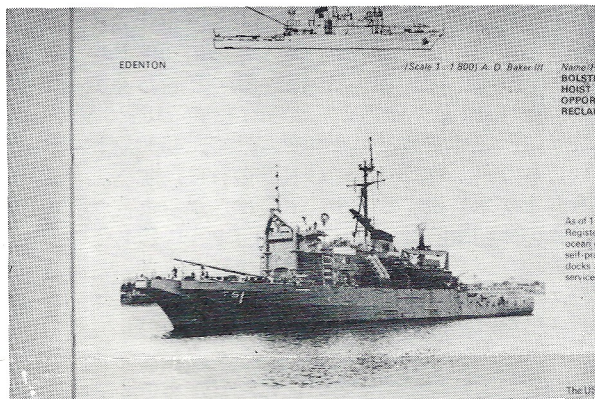
♥会員数の推移

	S 61. 6月末	S 62. 6月末	増 減
法人会員	148 (社)	146 (社)	-2 (社)
	158 (口)	156 (口)	-2 (口)
個人会員	347 (名)	376 (名)	+29 (名)
	424 (口)	420 (口)	-4 (口)

新規加入は、個人会員を主に増加していますが、会費滞納者の退会や、個人会員で加入口数の多い人の減口などがあり、実質口数は微減しています。

♣佐世保を母港とする米海軍艦船

今年秋頃に佐世保基地に配備される6隻目の艦船をご紹介します。(写真: ジューン年鑑より転載)



サルベージ救難艦「ビュフォート」Beaufort ATS-2

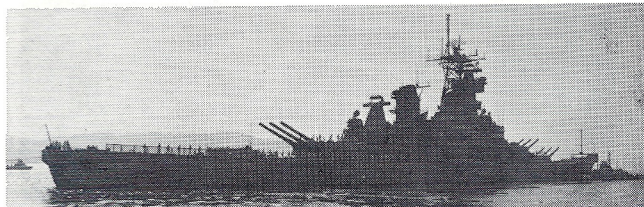
EDENTON 級の2番艦として1972年に就役。満載排水量2,929トン、全長86.1メートル、速力16ノット、主兵装20ミリ砲2基。乗組定員総数129名(うち将校7名)。

○佐世保基地には、現在、下記の5隻が配備されています。

艦名	艦種	満載排水量	全長	乗組員定数
St. Louis	貨物揚陸艦	18,600	175.4	356 (22)
Darter	ディーゼル潜水艦	2,388	81.9	93 (8)
Dubuque	ドック型揚陸艦	16,500	173.8	425 (29)
Barbel	ディーゼル潜水艦	2,894	66.8	85 (8)
San Bernardino	戦車揚陸艦	8,450	159.2	374 (28)

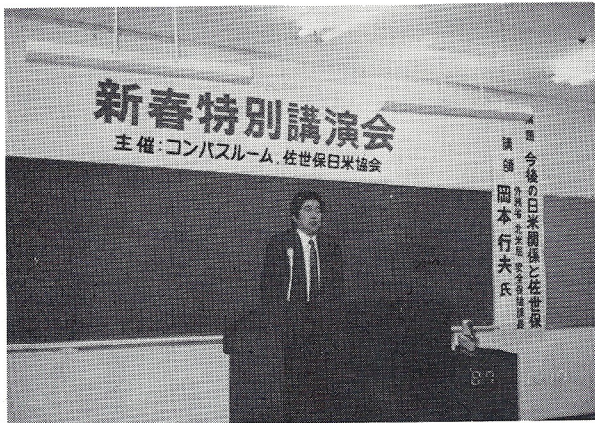
▲表敬訪問の記録

- S 61. 7. 8 Morford 福岡アメリカ領事館首席領事(転任)  
Lafluer 在日アメリカ大使館政治部一等書記官
- S 61. 8. 1 Lyons 大将(太平洋艦隊司令官)
- S 61. 8.25 Tylor 少将(第1巡洋艦・駆逐艦隊司令官)  
Glenn 大佐(戦艦ニュージャージー艦長)



- S 61. 8.29 Cossey 少将(在日米海軍司令官)
- S 61. 9.11 Kennedy 福岡アメリカ領事館首席領事(新任)
- S 61. 9.24 Coulbourn 大佐(佐世保基地司令官・転任)  
Parkhurst 大佐(佐世保基地司令官・新任)
- S 61.10.27 Clark 大佐(太平洋地区医療隊司令官)  
Black 大佐(横須賀米軍病院長)
- S 61.11.11 Darby 少将(太平洋潜水艦隊司令官)  
Habermeyer 大佐(第7潜水艦隊司令官・転任)
- S 61.11.12 McCarthy 中将(第7艦隊司令官・転任)
- S 61.11.14 Smith 少将(第1水陸部隊司令官)
- S 61.12. 8 Davis 中将(太平洋水上艦隊司令官)
- S 61.12.11 Brooks 少将(第5空母機動部隊司令官)
- S 61.12.25 Carter 中佐(サンバーナーディーノ艦長・新任)
- S 62. 1.14 Clemens 大佐(第7潜水艦隊司令官・新任)
- S 62. 1.26 Richardson 少将(西太平洋水上艦隊司令官)
- S 62. 1.27 Tillotson 大佐(セントルイス号艦長・転任)  
Butler 大佐(セントルイス号艦長・新任)
- S 62. 3. 3 Howell 大佐(横須賀基地司令官)
- S 62. 3. 5 Harvey 中佐(クイーンフィッシュ艦長)
- S 62. 3.30 Browne 大佐(ナイアガラフォールズ艦長)
- S 62. 4. 8 Lewis 少将(太平洋艦隊兵站支援隊司令官)
- S 62. 4.11 McGrail 少将(第1空母機動部隊司令官)  
Davis 大佐(空母レンジャー艦長)  
Weniger 大佐(ロングビーチ艦長)  
Smith 中佐(ルイス・B・プラー艦長)
- S 62. 4.15 Mauz 少将(太平洋艦隊副幕僚長)  
Durbin 大佐(ヘリ空母オキナワ艦長)  
McKenna 大佐(第25駆逐艦隊司令官)
- S 62. 4.22 Warlick 中佐(佐世保米軍病院長・転任)  
Hanson 少佐(佐世保米軍病院長・新任)
- S 62. 5.25 Donlon 大佐(在日国連軍司令官)
- S 62. 6. 3 Miller 中将(第7艦隊司令官・新任)
- S 62. 6. 4 Cossey 少将(在日米海軍司令官)
- S 62. 6.22 Reynolds 少将(太平洋潜水艦隊司令官)

♥ 日米関係講演会 (要約)



S62.1.17 岡本行夫氏  
(外務省北米局安全保障課長)

現在の日米関係は、激しい貿易摩擦下にあり、率直に言って良い関係ではない。

特にアメリカ議会には相当のイライラがある。昨年だけで500億ドルの貿易黒字があり、これだけの黒字を抱えたという国は、過去に1920年代のアメリカ、1970年代のサウジアラビアそして、現在の日本くらいしかない。

Japan Problem (日本問題) とまで言われているが、欧州はともかく対米関係において私は決して悲観していない。今後、黒字は減少していくであろうし、日米が分かたことのできないパートナーであるという事実は、安全保障関係がうまくいっているからであると思う。

一年間の安全保障関係を、おさらいする会が、ハワイでの事務レベル協議会ですが、その会でのアメリカの反応は非常に良好である。

つい2日前も、ワインバーガー国防長官が、アメリカ議会では日本批判をしている上院議員に、日本はよくやっているんだということを説得している状況を見ることがあった。

国防省は、日本人以上に日本を弁護してくれることができ、ここに日米関係が良好な状態を保っているひとつの理由を知ることができる。

在日米軍基地に働く日本人従業員の給料の83%はアメリカが負担していることや、円高で、百億円単位でその負担が増大していることなど、アメリカの負担というものには相当なものがある。

現在、日本人の7割が日米安保体制を支持している。残りは、非武装中立、武装中立、ソ連と同盟、無回答などであるが、私は日米安保体制を続けて25年間、日本の選択は正しかったと思う。防衛費が少なくてすみ、安全であったから繁栄できた。

GNP 1%を突破するのかどうかではなく、日本の将来のために中期防衛計画を達成するのかが問題のはずで、その結果1%枠を出ることがあってもいたし方はないことである。

但し、専守防衛、周辺諸国に脅威を与えない、軍事大国にならないなどの原則は、きちんと守らなければならない。

非武装中立の考え方は非現実的で、世界の歴史が、自国が侵略しなければ他国からの侵略はないという考え方は、まちがいであるということを語っている。

抑止力という考え方を基本に、日本の自衛隊だけでは完全な抑止力にはなっていないので、アメリカの力を借りているというのが現状である。

ソ連の極東兵力のうち太平洋艦隊は800隻、160万トン、うち原潜120隻、空母2隻を、誇っており、日本の23万トンとアメリカ第7艦隊の67万トンを合算しても対抗できない。

オホーツクのいたるところに潜むソ連のミサイル原潜は、常に日本全体及びアメリカ全体をその射程におさめている。

アメリカ海軍の増強は、そうしたソ連の動きに対応したものであり、今後、佐世保基地及び佐世保の重要性は、ますます高まるであろう。



S62.3.13 日高義樹氏  
(NHKスペシャル番組部チーフコレスポネント)  
(元NHKワシントン支局長)

私は25年前にNHK佐世保局に勤務した経験があり、街は大きくはなっているのですが雰囲気はあまり変化なく懐かしい思いをしています。先ほど、基地の中にも案内していただいたのですが、世界のどこの国の基地のある街よりも、佐世保がうまくいっているということを感じています。

一時期、カーター政権末期に、軍事費を抑えるために、海外の基地を撤退して、アメリカ本土内にそれに代替した出撃隊をつくらうという計画があった。これには国防省(ペンタゴン)が猛烈に反対し計画は進まなかったが、1980年になってレーガン政権が登場し、強いアメリカ、小さな政府、減税を3本柱に海外の基地に対する考え方も大きく変化した。

むしろ、軍事費削減のためには本土内に出撃部隊は、できるだけ海外へ出して、他国にも一部を負担してもらおう。600隻の海軍構想、戦艦の復活、15の空母群の新鋭化など、強いアメリカに向けての軍事力強化の傾向に変化していった。

日本に関して言えば、三沢のF16配備、沖縄の海兵隊の増強、佐世保基地の増強傾向などである。

一隻のミサイル駆逐艦を建造するのに10億ドル、空母一隻に100億ドル、ひとつの空母機動部隊を新しくするためには300億ドルの経費が必要で、現在存在する15空母群を、2050年までに新しくするという計画だけで、4500億ドルのお金が必要となり、これは日本のGNPの1/4に達する。

SDIが本格化すると1兆ドルはかかると言われるし、アメリカの年間国防費は現在、3000億ドル消費している。

ソ連のゴルバチョフ政権には、アメリカとの対話路線もあるが、アメリカの考え方として、1990年までにはゴルバチョフ政権は倒れ、その後には強力な軍部が台頭してくるという見方がある。アメリカがゴルバチョフ政権にてこ入れをして、ゴルバチョフ政権が勝てるのなら、ゴルバチョフを助けようという考え方もある。

しかし、アメリカのソ連に対する基本戦略は、陸は中国の陸軍、海は日本の自衛隊とアメリカの第7艦隊で対抗しようという考え方である。

そのためにも、佐世保、横須賀、フィリピンなどは特に重要性を増してくる。

また、アメリカ議会の基本的考え方は、海外基地の縮小で、欧州に対してはアメリカをさておいてのソ連との対話に対する不満、日本に対しては貿易摩擦から発生する不満がある。

現在の日本の原点は、1945年8月の終戦であるが、アメリカの原点は、1929年の金融大恐慌である。アメリカ人には、2度と、ああいうパニックは経験したくないという考え方があり、安定した経済環境を重大視している。

今のアメリカにとって日本からの資金力は不可分なものであり、アメリカにとって日本との良好な関係は絶対不可欠なものということには今後も変化なく、特にペンタゴンと日本政府の関係は驚くほど良好であり、佐世保の重要性は今後も増大するものと思われま。